筑摩書房「文学国語」（文国 ７０８）年間指導計画（シラバス）案

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 科　目 | 単位数 | 指導学年 | 使用教科書・副教材等 |
| 文学国語 | ４単位 | ○○科○学年○学級 | 筑摩書房『文国708　文学国語』  準拠ノート『文学国語　課題ノート』  （「課題ノート」の扱いについては省略） |

１　学習の到達目標等

|  |  |
| --- | --- |
| 学習の到達目標 | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。  (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。  (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。  (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 |

２　評価の観点

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 評価の観点 | | |
| a ．知識・技能 | ｂ．思考力・判断力・表現力 | ｃ．主体的に学習に取り組む態度 |
| 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 | 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 | 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。 |

３　学習計画及び評価方法等（文国708）

| 月 | 単元名 | 単元の目標 | 学習内容（教材） | 配当時間 | 学習活動 | 評価基準・評価方法 | 評価の方法 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| a 　（知識・技能）  ｂ　（思考力・判断力・表現力）　A書くこと・B読むこと  ｃ　（主体的に学習に取り組む態度） |
| 第一部 | | | | | | | |
| ４ | 第１章　ことばから広がる世界　随想・評論（一） | 豊かな認識へと導くことばに触れる  【読むこと】 | プラスチック膜を破って | ２ | ➀「プラスチック膜」とはどのようなものか、読み取る。  ②筆者の語り口の特徴を読み取る。  ③同じことばや改行がもたらす効果について話し合う。  ④「プラスチック膜」の存在や、それが破れたことを感じた自分自身の経験について400字以内でまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「プラスチック膜を破って」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「プラスチック膜を破って」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自らの経験について文章にまとめる中でそれらの語句を使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「プラスチック膜を破って」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「プラスチック膜を破って」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自らの文章をまとめる際にはそれらを使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「プラスチック膜を破って」を読むことを通して我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「プラスチック膜を破って」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「プラスチック膜を破って」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  ウ　「プラスチック膜を破って」を他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「プラスチック膜を破って」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  カ　「プラスチック膜を破って」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 4 | 第１章　ことばから広がる世界　随想・評論（一） | 豊かな認識へと導くことばに触れる  【読むこと】 | 情報の彫刻 | ２ | ➀筆者は紙の書籍の魅力をどのような点にあると考えているか、読み取る。  ②電子メディアの普及により文学作品を読む行為にどのような変化が生じてくるか、同じ一つの作品を、紙の書籍と電子メディアとで読み比べ、話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「情報の彫刻」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「情報の彫刻」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「情報の彫刻」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「情報の彫刻」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「情報の彫刻」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「情報の彫刻」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「情報の彫刻」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  ウ　「情報の彫刻」と他の作品を比較したり、紙の書籍と電子メディアを比較したりするなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「情報の彫刻」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  カ　「情報の彫刻」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 4 | 第１章　ことばから広がる世界　随想・評論（一） | 豊かな認識へと導くことばに触れる  【読むこと】 | バイリンガリズムの政治学 | ３ | ①「道路標識」を筆者はどのように分析しているか、読み取る。  ②筆者が目指している「新たな表現」とはどのようなものか、考える。  ③日常で「境界」の存在を感じる場面を挙げ、その境界を動かしたり、崩したりすることでどのようなことが見えてくるか、話し合う。  ④よその土地や外国への旅で直面する困難について、具体的に想定しながら、800字程度のエッセイを書く。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「バイリンガリズムの政治学」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 　「バイリンガリズムの政治学」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら紀行文などの文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「バイリンガリズムの政治学」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「バイリンガリズムの政治学」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら紀行文などの文章をまとめる際にそれらを使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「バイリンガリズムの政治学」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「バイリンガリズムの政治学」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「バイリンガリズムの政治学」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  ウ　「バイリンガリズムの政治学」の読解を通して、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「バイリンガリズムの政治学」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  カ　「バイリンガリズムの政治学」の読解を通して、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉  発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉  学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ５ | 第２章　物語との出会い　小説（一） | 小説から情景や心情を読み取る  【書くこと】 | 山月記 | ４ | ①フィクションの世界だからこそ際立つ人間の姿を読み取る。  ②漢文調のリズムを味わう。  ③作中人物のやり取りに注目し、小説の中の会話の表現方法を理解する。  ④月を描いた場面を本文中から抜き出し、それぞれがどのような効果をあげているか、話し合う。  ⑤この作品と同じように、変身を題材とした「変身譚」を探し、その内容をノートにまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「山月記」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「山月記」を通して、 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「山月記」の読解を通して、文学的な文章の種類（小説）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「山月記」における漢文調などの文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら物語などを書く際に使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「山月記」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「山月記」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ａ 書くこと  ア　「山月記」を参考に、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。  イ　「山月記」を参考に、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。  ウ　「山月記」を参考に、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。  エ　「山月記」を参考に、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 5 | 第２章　物語との出会い　小説（一） | 小説から情景や心情を読み取る  【書くこと】 | 神様 | ３ | ①語り手と「くま」が、互いに相手をどのように感じ、行動しているかを、情景とともに想像しながら読み味わう。  ②「眠る前に少し日記を書いた」とあるが、どのような日記か。「わたし」になったつもりで200字以内で書く。  ③参考「神様2011」を読み、元の「神様」との相違点を抜き出して、物語の印象がどのように変わったか。話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「神様」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「神様」を通して、 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「神様」の読解を通して、文学的な文章の種類（小説）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「神様」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら物語を書く際に使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「神様」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「神様」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ａ 書くこと  ア　「神様」を参考に、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。  イ　「神様」を参考に、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。  ウ　「神様」を参考に、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。  エ　「神様」を参考に、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 5 | 第２章　物語との出会い　小説（一） | 小説から情景や心情を読み取る  【書くこと】 | 実践1　構成と展開を工夫して、変身物語を書こう | １ | ①「変身」をテーマに、頭に浮かんだアイディアをノートにメモする。  ②人物、情景、状況など、細部のメモを増やす。  ③物語を作る。まず物語の冒頭から結末までの流れを構想し、そこに場面の細部を加える。  ④時間の流れの中で変化が生じる展開や、「起承転結（四部構成）」「序破急（三部構成）」などの構成に工夫する。  ⑤作品にふさわしいタイトルをつける。  ⑥5・6人程度のグループを作り、書いた作品を互いに読み合って批評する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　変身物語を書く活動を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 第2章で学んだ小説を通して情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら活動の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　変身物語を書く活動を通して、小説など文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。  エ　変身物語を書く活動を通して、小説など文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　変身物語を書く活動を通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　変身物語を書く活動を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ａ 書くこと  ア　変身物語を書く活動を通して、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。  イ　変身物語を書く活動を通して、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。  ウ　変身物語を書く活動を通して、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。  エ　変身物語を書く活動を通して、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。  ｃ  活動の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物 |
| 6 | 第３章　背後にあるメッセージ　随想・評論（二） | 身近な題材を取り上げ、問題を発見する  【読むこと】 | 実体の美と状況の美 | ３ | ①美意識の中に潜む文化的な基準を、歴史上のさまざまな事例からたどる本文を読み取る。  ②筆者は日本人の美意識を「状況の美」に見いだしているが、日本の代表的な美術作品を参考にしながら、筆者の見解について話し合う。  ③「日本の美」だと言われている伝統文化や風俗、建造物などを挙げ、その起源を調べる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「実体の美と状況の美」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「実体の美と状況の美」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「実体の美と状況の美」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「実体の美と状況の美」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「実体の美と状況の美」を読み、また本文を参考に「日本の美」だと言われている伝統文化や風俗、建造物などを挙げ、その起源を調べる中で、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「実体の美と状況の美」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「実体の美と状況の美」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「実体の美と状況の美」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  エ　「実体の美と状況の美」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「実体の美と状況の美」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、この評論の背景や他の美術論などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「実体の美と状況の美」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉。 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ６ | 第３章　背後にあるメッセージ　随想・評論（二） | 身近な題材を取り上げ、問題を発見する  【読むこと】 | メディアと倫理 | ３ | ①本文を通して映像メディアと接する際の留意点を理解することを通し、文学作品特有の表現力について考える。  ②小川洋子「死者の声を運ぶ小舟」で取り上げられている広島で被爆した「折免滋君の弁当箱と水筒」の写真に「『今日は大豆ご飯だから、昼飯が楽しみだ。』と言って出かけたという。」というキャプションが付されていたら、受け止め方はどう変わるか、考える。  ③原民喜の詩『コレガ人間ナノデス』を読み、文学の描写が与える衝撃などについて、写真やテレビの特徴と比較しながら話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「メディアと倫理」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「メディアと倫理」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「メディアと倫理」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「メディアと倫理」を通して、映像メディアと文学作品の表現の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「メディアと倫理」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「メディアと倫理」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「メディアと倫理」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「メディアと倫理」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  エ　「メディアと倫理」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「メディアと倫理」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、この評論の背景や、写真とテレビの特徴の違いを踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「メディアと倫理」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉。 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ６ | 第３章　背後にあるメッセージ　随想・評論（二） | 身近な題材を取り上げ、問題を発見する  【読むこと】 | ラムネ氏のこと | ３ | ➀本文中のそれぞれのたとえ話に共通点を見つけ、隠れたメッセージを読み取る。  ②筆者の考える「一生の業」とはどのようなものか、話し合う。  ③筆者はこのエッセイを通して何を伝えようとしているか、400字程度にまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「ラムネ氏のこと」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「ラムネ氏のこと」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「ラムネ氏のこと」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「ラムネ氏のこと」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「ラムネ氏のこと」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「ラムネ氏のこと」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「ラムネ氏のこと」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「ラムネ氏のこと」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  エ　「ラムネ氏のこと」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「ラムネ氏のこと」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「ラムネ氏のこと」の読解を通して、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ６ | 第４章　現実を揺さぶる想像力　随想・評論（三） | 現実を多面的に捉える想像力を身につける  【読むこと】 | 異なり記念日 | ３ | ①本文を読み解き、多様な背景を持つ他者との出会いやふれあいについて追体験をする。  ②視覚や聴覚に障害がある人はどのような情報伝達手段を用いているのか、調べて発表する。  ③自分が「異なることがうれしい」と感じた経験について、800字程度でまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「異なり記念日」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「異なり記念日」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「異なり記念日」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「異なり記念日」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「異なり記念日」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「異なり記念日」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「異なり記念日」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「異なり記念日」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  エ　「異なり記念日」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  カ　「異なり記念日」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉。 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ６ | 第４章　現実を揺さぶる想像力　随想・評論（三） | 現実を多面的に捉える想像力を身につける  【読むこと】 | 記号論と生のリアリティ | ３ | ①本文を読み解き、「記号学」についての筆者の考え方を理解する。  ②「記号学」の考え方を踏まえて、本文に示されている漫画や小説の主人公の心情について解釈し、説明する。  ③単にことばを表すにとどまらない手法で文字を用いた文学作品について、その表現が読み手にもたらす効果を考える。  ④本文の「か」を並べた例示を凝視し、何を連想したか、話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「記号論と生のリアリティ」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「記号論と生のリアリティ」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「記号論と生のリアリティ」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「記号論と生のリアリティ」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「記号論と生のリアリティ」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「記号論と生のリアリティ」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「記号論と生のリアリティ」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「記号論と生のリアリティ」の筆者の視点や、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  エ　「記号論と生のリアリティ」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  カ　「記号論と生のリアリティ」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 7 | 第４章　現実を揺さぶる想像力　随想・評論（三） | 現実を多面的に捉える想像力を身につける  【読むこと】 | 金繕いの景色 | ３ | ➀本文を読み解き、筆者が考える「金繕い」の魅力を考える。  ②「金繕い」の技術と、日本の古典文学や伝統芸能との共通点と相違点とを考える。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「金繕いの景色」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「金繕いの景色」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「金繕いの景色」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。  エ　「金繕いの景色」における文体の特徴（随想・評論）や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「金繕いの景色」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「金繕いの景色」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「金繕いの景色」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「金繕いの景色」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  エ　「金繕いの景色」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  カ　「金繕いの景色」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 9 | 第５章　自己と向き合う　小説（二） | 「自己」を追い求める近代の特色について考える  【読むこと】 | こころ | ５ | ①人間関係をおさえて、「私」の観察と分析、心理の揺れ動きを辿る。  ②人物のようすに留意して、物語を立体的に捉える。  ③「こころ」全編を読み、800字程度の感想文を書く。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「こころ」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「こころ」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「こころ」の読解を通して、文学的な文章の種類（小説）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「こころ」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「こころ」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「こころ」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「こころ」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「こころ」の語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  エ　「こころ」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「こころ」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「こころ」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 9 | 第６章　過去との対話　随想・評論（四） | 生の軌跡をひもとき、現在のあり方を考える  【読むこと】 | 死者の声を運ぶ小舟 | ３ | ①「文学の力」について、筆者の主張を読み取る。  ②本文中に例として挙がっている文学作品の中から一冊を選んで読み、感想を800字程度でまとめる。  ③本文は英語で発表されたが、本文を英語で語る意義について話し合う。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「死者の声を運ぶ小舟」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「死者の声を運ぶ小舟」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「死者の声を運ぶ小舟」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「死者の声を運ぶ小舟」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「死者の声を運ぶ小舟」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「死者の声を運ぶ小舟」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「死者の声を運ぶ小舟」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「死者の声を運ぶ小舟」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  エ　「死者の声を運ぶ小舟」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「死者の声を運ぶ小舟」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、教材で挙げられた作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、文学作品の解釈を深めている。  カ　「死者の声を運ぶ小舟」の読解を通して、文学作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ９ | 第６章　過去との対話　随想・評論（四） | 生の軌跡をひもとき、現在のあり方を考える  【読むこと】 | 論語―私の古典 | ３ | ①『論語』がいかにして内部から筆者を励ます「私の古典」となったのかを読み取る。  ②教科書に示された『論語』の文章について、意味を調べ、記された背景を想像しながら物語としてまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「論語―私の古典」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「論語―私の古典」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「論語―私の古典」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「論語―私の古典」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「論語―私の古典」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「論語―私の古典」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「論語―私の古典」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「論語―私の古典」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  エ　「論語―私の古典」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「論語―私の古典」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「論語―私の古典」の読解を通して、古典や文学作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ９ | 第６章　過去との対話　随想・評論（四） | 生の軌跡をひもとき、現在のあり方を考える  【読むこと】 | 空と風と星の詩 | ３ | ①筆者が、韓国の夭折詩人の詩を知り、生前の足跡をたどる過程で、いかにして「大きな喜び」を得たのか、読み取る。  ②「人間の質」について、自分の考えを400字程度にまとめる。  ③本文に引用された尹東柱の詩を一編選び、鑑賞文を書いて、発表する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「空と風と星の詩」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「空と風と星の詩」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「空と風と星の詩」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「空と風と星の詩」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「空と風と星の詩」を通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「空と風と星の詩」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「空と風と星の詩」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「空と風と星の詩」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  エ　「空と風と星の詩」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「空と風と星の詩」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「空と風と星の詩」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第７章　世界観を築く　随想・評論（五） | 世界の捉え方を明らかにする  【読むこと】 | 未来をつくる言葉 | ３ | ①コミュニケーションと翻訳についての筆者の考えを理解する。  ②筆者の主張を踏まえ、「神様」における「わかりあえなさ」について話し合う。  ③「星の王子さま」（サン・テグジュペリ）を例に、「翻訳する人に固有の面白さ」が具体的にどのように現れているか、話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「未来をつくる言葉」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「未来をつくる言葉」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「未来をつくる言葉」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「未来をつくる言葉」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「未来をつくる言葉」を通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「未来をつくる言葉」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「未来をつくる言葉」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  エ　「未来をつくる言葉」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「未来をつくる言葉」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、「神様」や「星の王子さま」など文学作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、文学作品の解釈を深めている。  カ　「未来をつくる言葉」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第７章　世界観を築く　随想・評論（五） | 世界の捉え方を明らかにする  【読むこと】 | 建築論ノート | ３ | ①比喩とレトリックを駆使して展開された論理の流れを辿る。  ②本文から比喩表現や擬人法を抜き出して、その効果について話し合う。  ③本文を参考にしてこれまでの建築の問題を挙げ、建築と人間について自分の考えをまとめ、400字程度で書く。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「建築論ノート」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「建築論ノート」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「建築論ノート」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「建築論ノート」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「建築論ノート」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「建築論ノート」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「建築論ノート」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  エ　「建築論ノート」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「建築論ノート」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、ここで挙げられた作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「建築論ノート」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉。 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第７章　世界観を築く　随想・評論（五） | 世界の捉え方を明らかにする  【読むこと】 | 能　時間の様式 | ３ | ➀写真や能を通じて感得した筆者の論旨を読み取り、考えを深める。  ②「カーナーボーン卿に向かって訴えかけていた」とあるが、訴えた内容とその理由を話し合う。  「落花枝に帰らず、……業因かな。」という能「屋島」の引用を現代語に訳し、なぜ筆者がこの部分を引用したのか、話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「能　時間の様式」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「能　時間の様式」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「能　時間の様式」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「能　時間の様式」おける文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「能　時間の様式」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「能　時間の様式」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「能　時間の様式」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  エ　「能　時間の様式」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「能　時間の様式」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、ここで挙げられた作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「能　時間の様式」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 11 | 第８章　調べとリズム　詩歌 | 選び抜かれたことばの、洗練されたリズムを味わう  【書くこと】 | 小景異情・サーカス・永訣の朝 | 3 | ①それぞれの詩の作者について、経歴や作風などを調べる。  ②それぞれの詩の表現や内容について読み解く。  ③それぞれの詩を、構成・リズムに注意して朗読する。  ④三編の詩から自分がもっとも気に入った詩を選び、400字程度の鑑賞文を書く。  ⑤明治・大正期に活躍した他の詩人について調べ、自分の気に入った詩と、その理由を発表する。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「小景異情・サーカス・永訣の朝」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している  イ 「小景異情・サーカス・永訣の朝」を通して、 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「小景異情・サーカス・永訣の朝」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴（詩歌）などについて理解を深めている。  エ　「小景異情・サーカス・永訣の朝」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「小景異情・サーカス・永訣の朝」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「小景異情・サーカス・永訣の朝」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ａ 書くこと  ア　「小景異情・サーカス・永訣の朝」を参考に、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。  イ　「小景異情・サーカス・永訣の朝」を参考に、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。  ウ　「小景異情・サーカス・永訣の朝」を参考に、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。  エ　「小景異情・サーカス・永訣の朝」を参考に、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 11 | 第８章　調べとリズム　詩歌 | 選び抜かれたことばの、洗練されたリズムを味わう  【書くこと】 | 短歌・死にたまふ母 | 2 | ①それぞれの詩の表現上の技法や、その内容について読解する。  ②「死にたまふ母」連作について、「母」を表現するのにどのようなことばや枕詞が使われているか、説明する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「短歌・死にたまふ母」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している  イ 「短歌・死にたまふ母」を通して、 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「短歌・死にたまふ母」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（詩歌）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「短歌・死にたまふ母」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「短歌・死にたまふ母」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「短歌・死にたまふ母」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ａ 書くこと  ア　「短歌・死にたまふ母」を参考に、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。  イ　「短歌・死にたまふ母」を参考に、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。  ウ　「短歌・死にたまふ母」を参考に、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。  エ　「短歌・死にたまふ母」を参考に、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 11 | 第８章　調べとリズム　詩歌 | 選び抜かれたことばの、洗練されたリズムを味わう  【書くこと】 | 実践２　詩歌から発想を広げ、小説を書こう | １ | ①詩歌を選び、解釈する。  ②小説の骨格を作る。  ③骨格をもとに、小説を書く。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　詩歌から発想を広げ小説を書く実践を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している  イ 詩歌から発想を広げ小説を書く実践を通して、 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　詩歌から発想を広げ小説を書く実践を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（小説）や特徴などについて理解を深めている。  エ　詩歌から発想を広げ小説を書く実践を通して、文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　詩歌から発想を広げ小説を書く実践を通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　詩歌から発想を広げ小説を書く実践を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ａ 書くこと  ア　詩歌から発想を広げ小説を書く実践を通して、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。  イ　詩歌から発想を広げ小説を書く実践を通して、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。  ウ　詩歌から発想を広げ小説を書く実践を通して、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。  エ　詩歌から発想を広げ小説を書く実践を通して、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物 |
| 12 | 第９章　思考の道筋をたどる　随想・評論（六） | 柔軟に思考するために新鮮な着眼点を探る  【読むこと】 | 化物の進化 | ３ | ①科学者には「化物教育」が必要だという筆者の主張は何を意味するか、読み解く。  ②自然現象をもとにした化物（妖怪）の例が他にないか、科学的な説明も含めて調べよう。  ③本文での筆者の主張に対する自分の意見を800字程度でまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「化物の進化」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「化物の進化」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「化物の進化」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・詩歌）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「化物の進化」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「化物の進化」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「化物の進化」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「化物の進化」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  エ　「化物の進化」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「化物の進化」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「化物の進化」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 12 | 第９章　思考の道筋をたどる　随想・評論（六） | 柔軟に思考するために新鮮な着眼点を探る  【読むこと】 | 文学の仕事 | ３ | ①筆者が説く「文学」の役割を踏まえ、柔軟ない視点で捉え直す。  ②「そのことを文学者が語らなければ誰も語らないと思うのです」とあるが、そこには筆者のどのような思いが読み取れるか、話し合う。  ③「文学の力」について、自分の考えを200字程度でまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「文学の仕事」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「文学の仕事」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「文学の仕事」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「文学の仕事」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「文学の仕事」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「文学の仕事」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「文学の仕事」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  エ　「文学の仕事」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「文学の仕事」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、ここで挙げられた作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「文学の仕事」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 1 | 第１０章　日常の裂け目　小説（三） | 現実と非現実とをつなぐ小説の深みを理解する  【読むこと】 | 捨てない女 | ３ | ①比喩と想像力が生み出すことばの広がりを読み味わう。  ②本文から印象的な表現を選び、どのような点が印象的なのか考え、その表現を参考に短文を書く。  ③「ゴミ」を題材にして、400字詰め原稿用紙10枚程度の短い小説を書く。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「捨てない女」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「捨てない女」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「捨てない女」の読解を通して、文学的な文章の種類（小説）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「捨てない女」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「捨てない女」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「捨てない女」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「捨てない女」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「捨てない女」の読解を通して、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「捨てない女」と他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「捨てない女」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「捨てない女」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「捨てない女」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「捨てない女」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 2 | 第１０章　日常の裂け目　小説（三） | 現実と非現実とをつなぐ小説の深みを理解する  【読むこと】 | 魂込め | ５ | ①沖縄文学の中に表れることばと習俗、そして戦争の記憶を読み解く。  ②小説内の描写を手がかりに、沖縄戦や、沖縄独特の信仰について調べ、発表する。  ③沖縄のことばの使用が、この小説にどのような効果をもたらしているか、話し合う。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「魂込め」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「魂込め」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「魂込め」の読解を通して、文学的な文章の種類（小説）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「魂込め」の読解における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「魂込め」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「魂込め」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「魂込め」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「魂込め」の読解を通して、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「魂込め」と他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「魂込め」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「魂込め」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「魂込め」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「魂込め」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 4 | 第１章　物語が生まれる場所　随想・評論（一） | 創作を生み出す想像力に触れる  【読むこと】 | 小説とは何か | ４ | ①架空の物語である「小説」が、読み手に実体験のような感銘をあたえるのはなぜか、筆者の主張を踏まえて考える。  ②筆者の述べる「小説」の定義を50字以内でまとめる。  ③「遠野物語」を読んで、800字程度で感想をまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「小説とは何か」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「小説とは何か」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「小説とは何か」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「小説とは何か」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「小説とは何か」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「小説とは何か」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「小説とは何か」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「小説とは何か」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「小説とは何か」と他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「小説とは何か」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「小説とは何か」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「小説とは何か」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「小説とは何か」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 第二部 | | | | | | | |
| 4 | 第１章　物語が生まれる場所　随想・評論（一） | 創作を生み出す想像力に触れる  【読むこと】 | 陰翳礼讃 | ３ | ①日常生活に潜む「陰翳」の効果について、どのような表現が用いられているか整理し、筆者の美意識を確認する。  ②「闇」が効果的な働きをしている日常生活の例を挙げ、筆者の「闇」に対する考え方を200字以内でまとめる。  ③他に筆者による日本文化論にはどのようなものがあるか、調べる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「陰翳礼讃」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「陰翳礼讃」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「陰翳礼讃」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「陰翳礼讃」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「陰翳礼讃」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「陰翳礼讃」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「陰翳礼讃」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「陰翳礼讃」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「陰翳礼讃」と他の筆者による日本文化論と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「陰翳礼讃」の読解を通して、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「陰翳礼讃」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「陰翳礼讃」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「陰翳礼讃」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 4 | 第１章　物語が生まれる場所　随想・評論（一） | 創作を生み出す想像力に触れる  【読むこと】 | みづの上日記 | ３ | ①明治時代半ばに華々しく登場した樋口一葉はどのような境遇にあったのか、時代背景とともに理解する。  ②本文の中で引用された筆者への評価を、現代語に訳してまとめる。  ③現代社会において、女性の活躍がメディアでどのように取り上げられているかをまとめ、樋口一葉が生きていた時代との共通点や相違点について、話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「みずの上日記」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「みずの上日記」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「みずの上日記」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（日記）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「みずの上日記」の読解を通して、文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「みずの上日記」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「みずの上日記」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「みずの上日記」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「みずの上日記」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「みずの上日記」と他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「みずの上日記」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「みずの上日記」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「みずの上日記」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「みずの上日記」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 5 | 第２章　交差するドラマ　小説（一） | 異質な価値観のぶつかり合いを読み解く  【読むこと】 | 舞姫 | ６ | ①豊太郎とエリスの間に何があったのか、語りの時制や文体・時代背景なども意識して、物語を読み味わう。  ②夏目漱石「こころ」と読み比べて、「明治」という時代の特徴について話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「舞姫」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「舞姫」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「舞姫」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（小説）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「舞姫」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「舞姫」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「舞姫」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「舞姫」のの種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「舞姫」の語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「舞姫」と他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「舞姫」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「舞姫」のに表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「舞姫」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「舞姫」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 5 | 第２章　交差するドラマ　小説（一） | 異質な価値観のぶつかり合いを読み解く  【読むこと】 | 鞄 | ３ | ①作中の「鞄」が意味するもについて考える。  ②この小説の主題は何か、話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「鞄」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「鞄」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「鞄」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（小説）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「鞄」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「鞄」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「鞄」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「鞄」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「鞄」の読解を通して、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「鞄」と他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「鞄」のの構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「鞄」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「鞄」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「鞄」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 5 | 第２章　交差するドラマ　小説（一） | 異質な価値観のぶつかり合いを読み解く  【読むこと】 | 「編集」という表現方法を楽しもう | １ | ①グループに分かれ、アンソロジーのテーマを考える。  ②掲載作品を選ぶ。読んだことがある作品だけでなく、図書館や書店で新たな作品を探す。  ③掲載候補作品の、タイトル・筆者名・出版社名をリストアップする。書籍の該当部分に付せんを貼るか、作品のコピーを取ったり、書き写したりする。  ④グループ内で候補作を互いに読み合い、どの作品を載せるか話し合う。  ⑤作品が決まったら配列をし、一冊にまとめる。読者に魅力が伝わるよう、並べ方にも工夫する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「『編集』という表現方法を楽しもう」という実践活動を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「『編集』という表現方法を楽しもう」という実践活動を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「『編集』という表現方法を楽しもう」という実践活動を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。  エ　「『編集』という表現方法を楽しもう」という実践活動を通して、文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「『編集』という表現方法を楽しもう」という実践活動を通して、文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「『編集』という表現方法を楽しもう」という実践活動を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「『編集』という表現方法を楽しもう」という実践活動を通して、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  エ　「『編集』という表現方法を楽しもう」という実践活動を通して、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「『編集』という表現方法を楽しもう」という実践活動を通して、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「『編集』という表現方法を楽しもう」という実践活動を通して、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉。 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物 |
| 6 | 第３章　新たな視座を得る　随想・評論（二） | 隠喩の機能を理解し、未知の見方を手に入れる  【読むこと】 | 〈うだてき〉場所の言葉 | ３ | ①故郷が歌とともに〈うだでき〉場所とされる理由を考える。  ②本文中、または日常生活の中から、気になる方言をいくつか取り上げ、辞書で由来を調べる。そして、意外な起源や関連性のあることばなど、発見したことを発表しあう。  ③本文の「体」「身」に関する表現に着目し、記憶・言語と身体との関係性について、800字以内で論じる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「〈うだでき〉場所の言葉」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「〈うだでき〉場所の言葉」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「〈うだでき〉場所の言葉」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「〈うだでき〉場所の言葉」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「〈うだでき〉場所の言葉」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「〈うだでき〉場所の言葉」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「〈うだでき〉場所の言葉」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「〈うだでき〉場所の言葉」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「〈うだでき〉場所の言葉」と他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「〈うだでき〉場所の言葉」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「〈うだでき〉場所の言葉」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、ここで挙げられた作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「〈うだでき〉場所の言葉」の読解を通して、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「〈うだでき〉場所の言葉」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ６ | 第３章　新たな視座を得る　随想・評論（二） | 隠喩の機能を理解し、未知の見方を手に入れる  【読むこと】 | 絵画は紙幣に憧れる | ３ | ①本文のタイトルと、文中の表現に着目し、文学的なレトリックを駆使した文章を読み解く。  ②「絵画は紙幣に憧れる」という標題はどのようなことを表しているのか。本文を踏まえて話し合う。  ③芸術作品の「価値」について600字以内で論じる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「絵画は紙幣に憧れる」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「絵画は紙幣に憧れる」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「絵画は紙幣に憧れる」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「絵画は紙幣に憧れる」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「絵画は紙幣に憧れる」の読解を通して、文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「絵画は紙幣に憧れる」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「絵画は紙幣に憧れる」の読解を通して、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「絵画は紙幣に憧れる」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「絵画は紙幣に憧れる」と他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「絵画は紙幣に憧れる」のの構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「絵画は紙幣に憧れる」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、ここで挙げられた作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「絵画は紙幣に憧れる」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「絵画は紙幣に憧れる」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ６ | 第３章　新たな視座を得る　随想・評論（二） | 隠喩の機能を理解し、未知の見方を手に入れる  【読むこと】 | 隠れん坊の精神史 | ３ | ①本文を読み解いて、抽象的な表現の内容をつかみ、具体例から普遍性を引き出す論法を学ぶ。  ②「隠れん坊」や「おとぎ話」が子どもたちにとってどのような意味を持つのかについて、話し合う。  ③「隠れん坊」以外の伝統的な外遊びについて、どのようなものがあるのかを調べ、その遊びの「意味」について、600字以内で論じる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「隠れん坊の精神史」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「隠れん坊の精神史」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「隠れん坊の精神史」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「隠れん坊の精神史」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「隠れん坊の精神史」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「隠れん坊の精神史」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「隠れん坊の精神史」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「隠れん坊の精神史」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「隠れん坊の精神史」と他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「隠れん坊の精神史」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「隠れん坊の精神史」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「隠れん坊の精神史」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「隠れん坊の精神史」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ７ | 第４章　文体がひらく世界　小説（二） | 文体が持つ力を読み味わう  【読むこと】 | 水仙 | ５ | ①「自己の天分とはなにか」をめぐり、人生のある時期に多くの人々が抱える普遍的な苦悩について、作者がどのように描いているか、着目する。  ②「僕」の語りを通して、筆者は、芸術家というものがどのような宿命を闘わなければならないと考えているか、400字以内でまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「水仙」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「水仙」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「水仙」の読解を通して、文学的な文章の種類（小説）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「水仙」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「水仙」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「水仙」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「水仙」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「水仙」の語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「水仙」と他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「水仙」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「水仙」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「水仙」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「水仙」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ７ | 第４章　文体がひらく世界　小説（二） | 文体が持つ力を読み味わう  【読むこと】 | 王国 | ５ | ①現実を想像力によって異なる世界に作り変え、眺めていく喜び。そのような物語の持つ力について考える。  ②小説全体を通して、会話の部分に「　」が用いられていないことが、どのような効果を生んでいるか、話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「王国」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「王国」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「王国」の読解を通して、文学的な文章の種類（小説）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「王国」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「王国」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「王国」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「王国」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「王国」の語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「王国」と他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「王国」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「王国」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「王国」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「王国」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ９ | 第５章　表現を突き詰める　随想・評論（三） | 文章の味わいと深みを生み出す秘密を探る  【読むこと】 | 無常ということ | ３ | ①筆者の心の動き・思考の進行に思わず釣り込まれ、深い思索へと導かれる、不世出の文章の秘密を考える。  ②この文章の発想・書き方にはどのような特色があるか、ノートにまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「無常ということ」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「無常ということ」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「無常ということ」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「無常ということ」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「無常ということ」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「無常ということ」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「無常ということ」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「無常ということ」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「無常ということ」と他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「無常ということ」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「無常ということ」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「無常ということ」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「無常ということ」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ９ | 第５章　表現を突き詰める　随想・評論（三） | 文章の味わいと深みを生み出す秘密を探る  【読むこと】 | 骨とまぼろし | ３ | ①メキシコへの旅を通して筆者が発見したことは何か、タイトルに込めた筆者の思いを考える。  ②筆者が旅を通して感じたこと、考えたことをもとに「骨とまぼろし」というタイトルについて話し合う。  ③これまでに旅を通して新たに気づいたことや、異郷の地に対する認識が変化した経験をもとに800字以内でエッセイを書く。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「骨とまぼろし」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「骨とまぼろし」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「骨とまぼろし」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「骨とまぼろし」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「骨とまぼろし」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「骨とまぼろし」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「骨とまぼろし」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「骨とまぼろし」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「骨とまぼろし」と他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「骨とまぼろし」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「骨とまぼろし」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「骨とまぼろし」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「骨とまぼろし」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ９ | 第５章　表現を突き詰める　随想・評論（三） | 文章の味わいと深みを生み出す秘密を探る  【読むこと】 | ある〈共生〉の経験から | ３ | ①〈共生〉した相手を思い出さないのはなぜなのか、想像力を働かせ、極限状況に表れる人間の姿について考える。  ②本文で描かれている「孤独」と「連帯」のあり方について、話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「ある〈共生〉の経験から」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「ある〈共生〉の経験から」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「ある〈共生〉の経験から」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「ある〈共生〉の経験から」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「ある〈共生〉の経験から」を通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「ある〈共生〉の経験から」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「ある〈共生〉の経験から」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「ある〈共生〉の経験から」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「ある〈共生〉の経験から」と他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「ある〈共生〉の経験から」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「ある〈共生〉の経験から」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「ある〈共生〉の経験から」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「ある〈共生〉の経験から」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| １０ | 第６章　詩歌という隣人　詩歌 | 詩や俳句から作者の思いを受け止める  【読むこと】 | 無題・旅情・N森林公園の冬 | ３ | ①ありふれたことばが詩になるとき、どのような眺めが広がるのか、現代詩を味わいながら、ことばの可能性について考える。  ②それぞれの詩を音読し、感じたことや印象に残ったことを箇条書きにしてまとめる。  ③三編の詩から自分がもっとも気に入った詩を選び、400字程度の鑑賞文を書く。  ④昭和・平成期に活躍した他の詩人を選び、印象にこった詩を発表する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「無題・旅情・N森林公園の冬」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「無題・旅情・N森林公園の冬」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「無題・旅情・N森林公園の冬」の読解を通して、文学的な文章の種類（詩歌）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「無題・旅情・N森林公園の冬」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「無題・旅情・N森林公園の冬」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「無題・旅情・N森林公園の冬」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「無題・旅情・N森林公園の冬」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「無題・旅情・N森林公園の冬」の作者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「無題・旅情・N森林公園の冬」と他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「無題・旅情・N森林公園の冬」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「無題・旅情・N森林公園の冬」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「無題・旅情・N森林公園の冬」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「無題・旅情・N森林公園の冬」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| １０ | 第６章　詩歌という隣人　詩歌 | 詩や俳句から作者の思いを受け止める  【読むこと】 | 俳句 | １ | ①情景や対象にどのような心情が託されているか、定型や表現技法に留意して、句の魅力を味わう。  ②それぞれの句の情景や心情を思い浮かべながら音読する。  ③好きな句を一つ選び、俳句の約束事である定型や季語がどのように生かされているか、話し合う。  ④関心をもった作者について、他の句やその作風を調べて発表する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「俳句」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「俳句」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「俳句」を通して、文学的な文章の種類（詩歌）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「俳句」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「俳句」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「俳句」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「俳句」の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「俳句」の読解を通して、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「俳句」と他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「俳句」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「俳句」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「俳句」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「俳句」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| １１ | 第７章　小説の可能性　小説（三） | 小説が開拓した世界観を追体験する  【読むこと】 | 藤野先生 | ３ | ①本文を読み、歴史的背景や社会状況を踏まえて、物語が描く中国人留学生の「私」と日本人教師「藤野先生」の姿を理解する。  ②この作品を読んで考えたことを、800字程度の文章にまとめる。  ③魯迅と藤野先生との関係を描いた太宰治の作品「惜別」と、この作品を読み比べ、感想を発表する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「藤野先生」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「藤野先生」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「藤野先生」の読解を通して、文学的な文章の種類（小説）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「藤野先生」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「藤野先生」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「藤野先生」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「藤野先生」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「藤野先生」の語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「藤野先生」と他の作品（「惜別」太宰治など）と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「藤野先生」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「藤野先生」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「藤野先生」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「藤野先生」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| １１ | 第７章　小説の可能性　小説（三） | 小説が開拓した世界観を追体験する  【読むこと】 | 沈黙 | ３ | ①本文を読んで、小説が描く、人の心の闇について考える。  ②題名である「沈黙」の意味について話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「沈黙」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「沈黙」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「沈黙」の読解を通して、文学的な文章の種類（小説）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「沈黙」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「沈黙」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「沈黙」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「沈黙」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「沈黙」の語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  ウ　「沈黙」と他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。  エ　「沈黙」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「沈黙」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「沈黙」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「沈黙」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| １２ | 第８章　未来を問う　随想・評論（四） | 文学作品を通して未来への思考を深める  【読むこと】 | 寛容は自ら守るために不寛容に対して不寛容になるべきか | ２ | ①著者の、慎重にことばを選び紡ぎ出す姿勢や表現を学び、文学作品の読解に生かす。  ②村上春樹「沈黙」を読み、「寛容」であることの意義について話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「寛容は自ら守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「寛容は自ら守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「寛容は自ら守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「寛容は自ら守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「寛容は自ら守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「寛容は自ら守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「寛容は自ら守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「寛容は自ら守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  エ　「寛容は自ら守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「寛容は自ら守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「寛容は自ら守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」の読解を通して、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「寛容は自ら守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| １２ | 第８章　未来を問う　随想・評論（四） | 文学作品を通して未来への思考を深める  【読むこと】 | チャンピオンの定義 | ３ | ①本文を読んで、複数の言語の響き合いに着目し、忘れ得ぬことばの源を探る。  ②「チャンピオンの定義」という題名はどのようなことを意味しているか、話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「チャンピオンの定義」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「チャンピオンの定義」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「チャンピオンの定義」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。  エ　「チャンピオンの定義」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「チャンピオンの定義」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「チャンピオンの定義」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ｂ 読むこと  ア　「チャンピオンの定義」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。  イ　「チャンピオンの定義」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。  エ　「チャンピオンの定義」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。  オ　「チャンピオンの定義」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。  カ　「チャンピオンの定義」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。  キ　「チャンピオンの定義」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| １～２ | 第８章　未来を問う　随想・評論（四） | 文学作品を通して未来への思考を深める  【書くこと】 | 実践４　創作の背景について調べよう | １ | ①作品や作者について調べ、レポートにまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「創作の背景について調べよう」という実践を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。  イ 「創作の背景について調べよう」という実践を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  ウ　「創作の背景について調べよう」という実践を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。  エ　「創作の背景について調べよう」という実践を通して、文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「創作の背景について調べよう」という実践を通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。  イ　「創作の背景について調べよう」という実践を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。  b  Ａ 書くこと  ア　「創作の背景について調べよう」という実践を通して、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。  イ　「創作の背景について調べよう」という実践を通して、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。  ウ　「創作の背景について調べよう」という実践を通して、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。  エ　「創作の背景について調べよう」という実践を通して、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物 |